

名古屋市における平成 15 年度化学物質の排出量等の届出集計結果

集計数値は、有効数字 2 桁で記載

1 排出量及び移動量の届出の状況

平成 15 年 4 月から翌年 3 月までの 1 年間の排出量及び移動量について、全市で 583 事業所から届出がありました。前年度の届出件数（444 事業所）と比較すると 139 事業所（31%）増加しました。

<表 1 愛知県、全国との届出件数の比較>

	平成 15 年度	平成 14 年度	増加率
名古屋市	583	444	31%
愛知県(名古屋市を含む。)	2,603	2,071	26%
全 国	41,079	34,497	19%

全国の平成 14 年度データは、国が平成 17 年 3 月 18 日に修正公表した数値です。

(1) 届出方法別の届出の状況

届出方法は、紙による届出が 502 件で、全体の 86%を占めました。

次いで、電子情報処理組織を使用した届出 54 件、磁気ディスクによる届出 27 件となっています。

<表 2 届出方法別にみた届出の状況>

届出方法	紙	電子情報 処理組織	磁 気 ディスク	合 計
届出件数 (全届出に占める割合)	502 (86%)	54 (9.3%)	27 (4.6%)	583

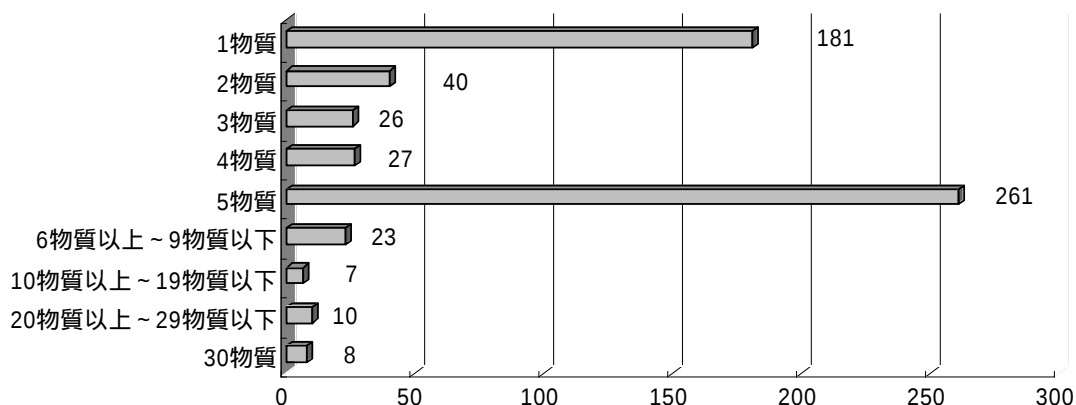
(2) 一事業所あたりの届出物質数

一事業所あたりの届出物質数は、図 1 のとおりです。

5 物質が最も多く 261 事業所から届出がありました。次いで、1 物質が 181 事業所、2 物質が 40 事業所の順となっています。

また、一事業所あたりの届出物質数の平均は 4.4 物質となっています。

<図 1 一事業所あたりの届出物質数>



(3) 業種別の届出の状況

業種別の届出事業所数と届出物質数は、表 3 のとおりです。

583 件の届出のうち、燃料小売業から最も多く 255 事業所 (44%) の届出がありました。次いで、自動車整備業の 113 事業所 (19%) 、金属製品製造業の 40 事業所 (6.9%) 、化学工業の 29 事業所 (5.0%) の順となっています。

また、届出物質数については、全市では 113 物質の届出があり、業種別に見ると化学工業が 79 物質で最も多く、次いで、下水道業、一般廃棄物処分業 (ごみ処分業に限る。) の 30 物質となっています。

< 表 3 業種別の届出事業所数及び届出物質数 >

業種	届出件数	物質数
燃料小売業	255	6
自動車整備業	113	5
金属製品製造業	40	25
化学工業	29	79
輸送用機械器具製造業	15	26
下水道業	15	30
石油卸売業	9	5
窯業・土石製品製造業	8	21
一般機械器具製造業	8	8
電気機械器具製造業	8	16
プラスチック製品製造業	7	14
鉄鋼業	7	12
非鉄金属製造業	7	15
倉庫業	7	14
出版・印刷・同関連産業	6	6
洗濯業	5	2
パルプ・紙・紙加工品製造業	4	5
一般廃棄物処理業 (ごみ処分業に限る。)	4	30
高等教育機関	4	3
繊維工業	3	3
木材・木製品製造業	3	7
石油製品・石炭製品製造業	3	8
その他の製造業	3	4
商品検査業	3	3
自然科学研究所	3	6
食料品製造業	2	1
家具・装備品製造業	2	8
電気業	2	2
機械修理業	2	8
産業廃棄物処分業	2	6
医薬品製造業	1	1
ゴム製品製造業	1	1
精密機械器具製造業	1	4
鉄道業	1	2

2 集計結果の概要

平成 15 年 4 月から翌年 3 月までの 1 年間の排出量等の全市及び区別の集計結果は、以下のとおりです。

(1) 全市の届出排出量及び移動量

ア 届出排出量及び移動量

平成 15 年度の届出排出量・移動量の合計は、6,200 トンであり、平成 14 年度 (5,700 トン) と比較すると 9.0% 増加しました。

排出量は 3,200 トンであり、平成 14 年度 (3,100 トン) と比較すると 3.1% 増加しました。

移動量は 3,000 トンであり、平成 14 年度 (2,600 トン) と比較すると 16% 増加しました。

なお、土壌への排出及び当該事業所内での埋立て処分の届出はありませんでした。

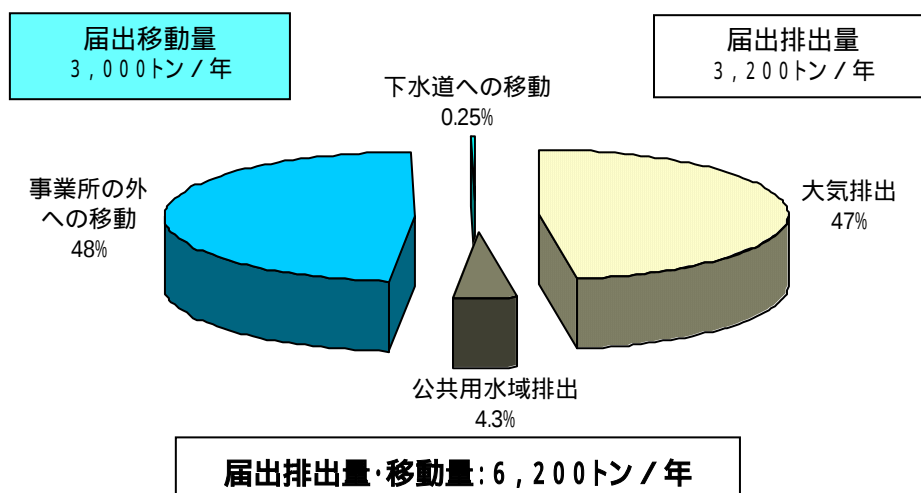
届出排出量 (3,200 トン) の内訳

・ 大気への排出	3,000 トン	排出量と移動量の合計に対する 割合 47%
・ 公共用水域への排出	270 トン (同 4.3%)	

届出移動量 (3,000 トン) の内訳

・ 事業所の外への移動	3,000 トン (同 48%)
・ 下水道への移動	15 トン (同 0.25%)

< 図 2 届出排出量・移動量の内訳 >



イ 届出排出量の多い物質

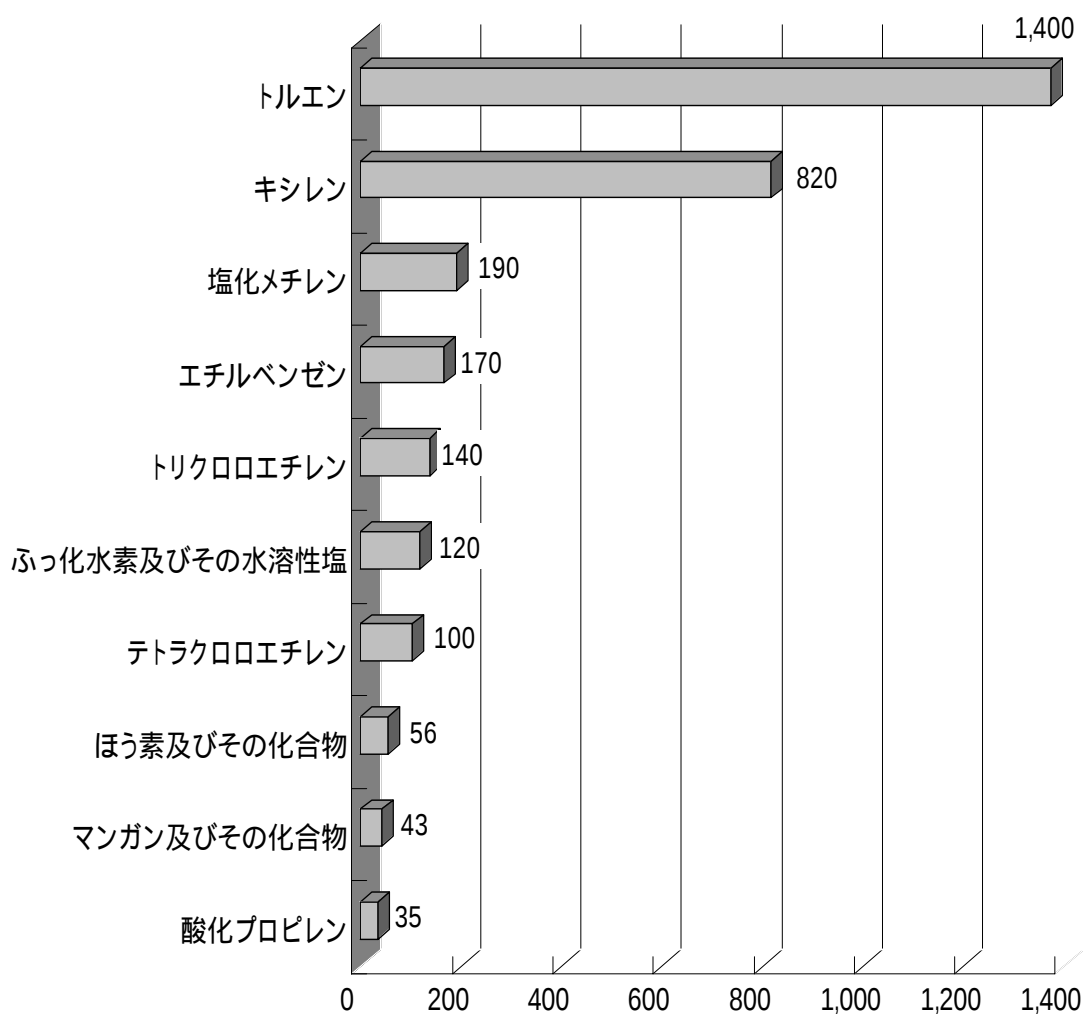
届出排出量の多い上位 10 物質とその排出量は、図 3 のとおりです。

届出排出量の多い順にトルエンの 1,400 トン、キシレンの 820 トン、ジクロロメタン（別名：塩化メチレン）の 190 トン、エチルベンゼンの 170 トン、トリクロロエチレンの 140 トンの順となっています。

これらの物質の主な用途は、トルエンやキシレンは溶剤や合成原料として、塩化メチレンは金属洗浄や溶剤として幅広く使用されています。

< 図 3 届出排出量の多い上位 10 物質とその排出量 >

（単位：トン／年）

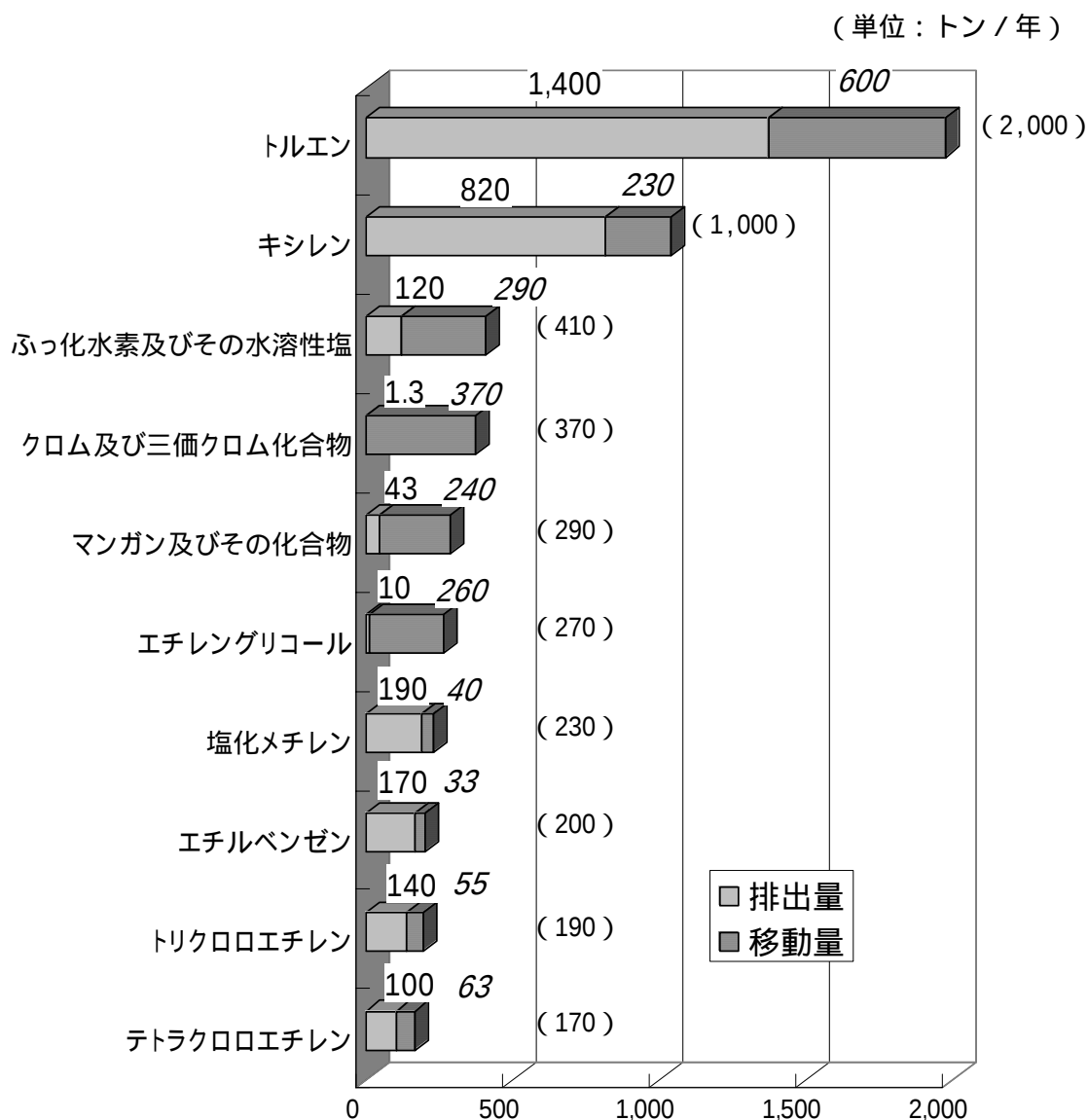


ウ 届出排出量・移動量の合計の多い物質

届出排出量・移動量の合計の多い上位 10 物質とその排出量は、図 4 のとおりです。

届出排出量・移動量の合計の多い順にトルエンの 2,000 トン、キシレンの 1,000 トン、ふっ化水素及びその水溶性塩の 410 トン、クロム及び三価クロム化合物の 370 トン、マンガン及びその化合物の 290 トンの順となっています。

< 図 4 届出排出量・移動量の合計の多い上位 10 物質とその量 >

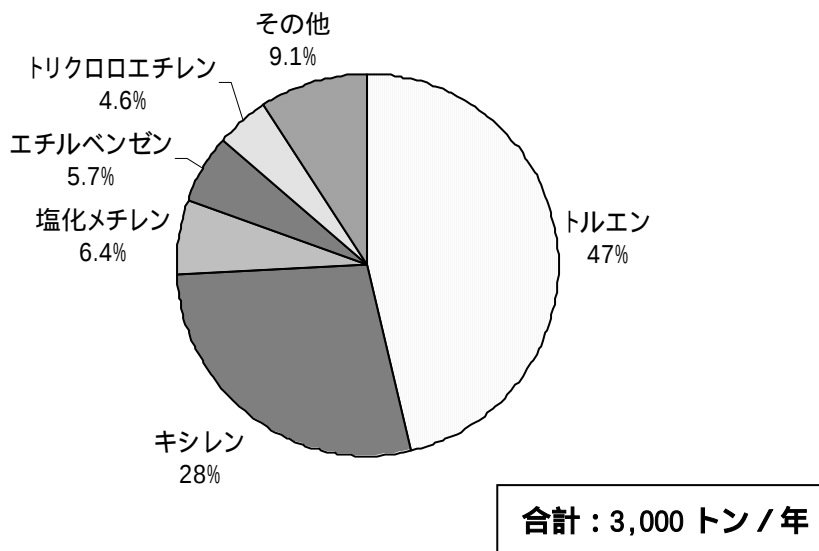


エ 媒体別の届出排出量及び移動量

a 大気への届出排出量

大気への届出排出量は 3,000 トンで、最も多く大気へ排出された物質はトルエンの 1,400 トン、次いでキシレンの 820 トン、塩化メチレンの 190 トンの順となっています。

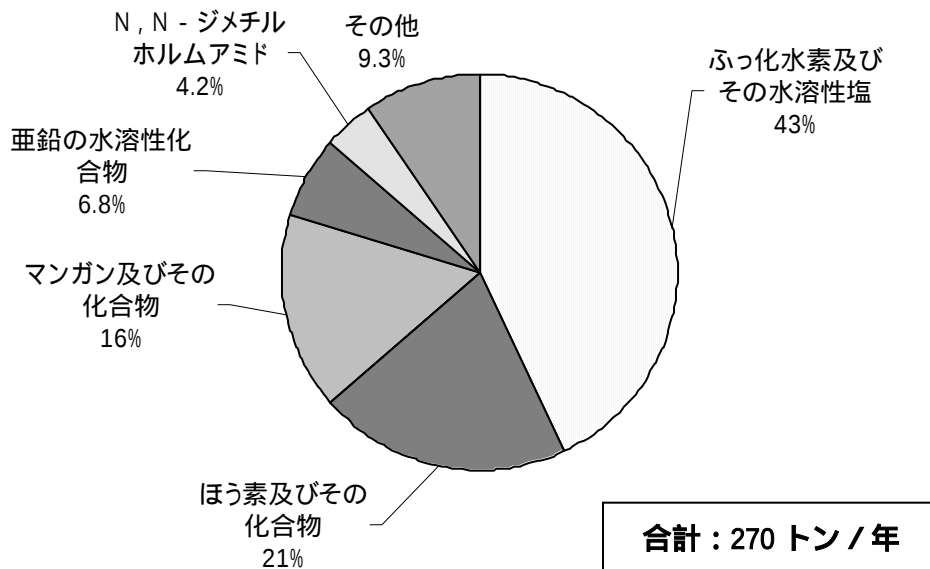
<図5 大気への排出量の内訳>



b 公共用水域への届出排出量

公共用水域への届出排出量は 270 トンで、最も多く公共用水域へ排出された物質はふっ化水素及びその水溶性塩の 120 トン、次いでほう素及びその化合物の 56 トン、マンガン及びその化合物の 43 トンの順となっています。

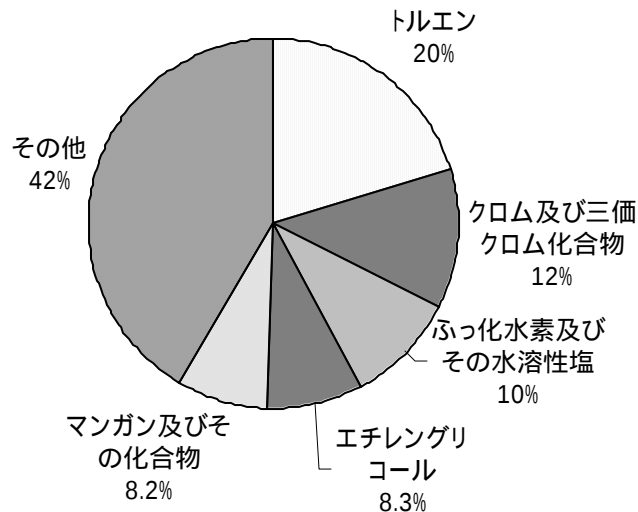
<図6 公共用水域への排出量の内訳>



c 事業所の外への廃棄物としての届出移動量

事業所の外への廃棄物としての届出移動量は 3,000 トンで、最も多く廃棄物として移動した物質はトルエンの 600 トン、次いでクロム及び三価クロム化合物の 370 トン、ふっ化水素及びその水溶性塩の 290 トンの順となっています。

< 図7 事業所外への廃棄物としての移動量の内訳 >

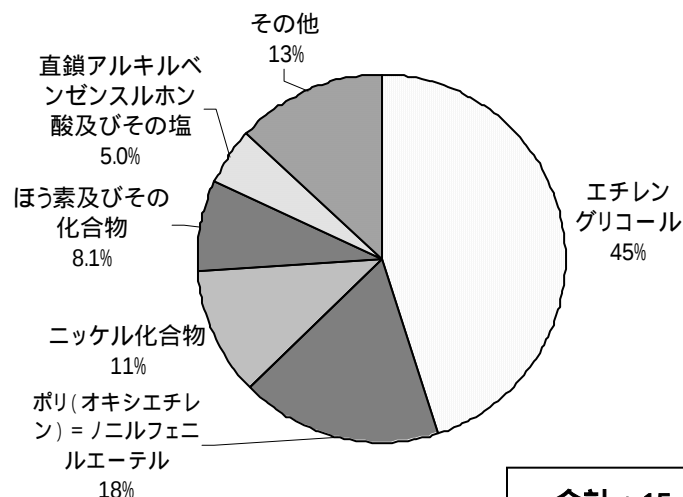


合計：3,000 トン / 年

d 下水道への届出移動量

下水道への届出移動は 15 トンで、最も多く下水道へ移動した物質はエチレングリコールの 6.9 トン、次いでポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニルエーテルの 2.7 トン、ニッケル化合物の 1.7 トンの順となっています。

< 図8 下水道への移動量の内訳 >



合計：15 トン / 年

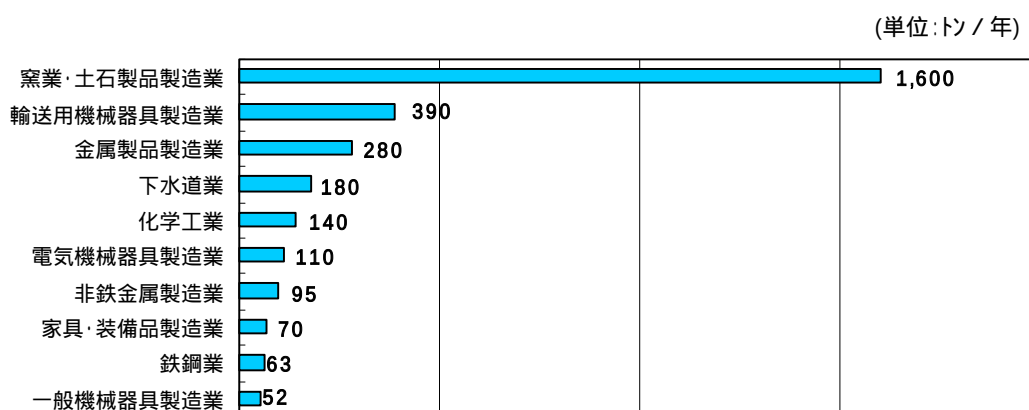
オ 業種別の届出排出量及び移動量

a 届出排出量の多い業種

業種別の届出排出量は、図 9 のとおりです。

届出排出量が最も多いのは、窯業・土石製品製造業の 1,600 トン、次いで輸送用機械器具製造業の 390 トン、金属製品製造業の 280 トンの順となっています。

< 図 9 排出量が多い上位10業種とその量 >

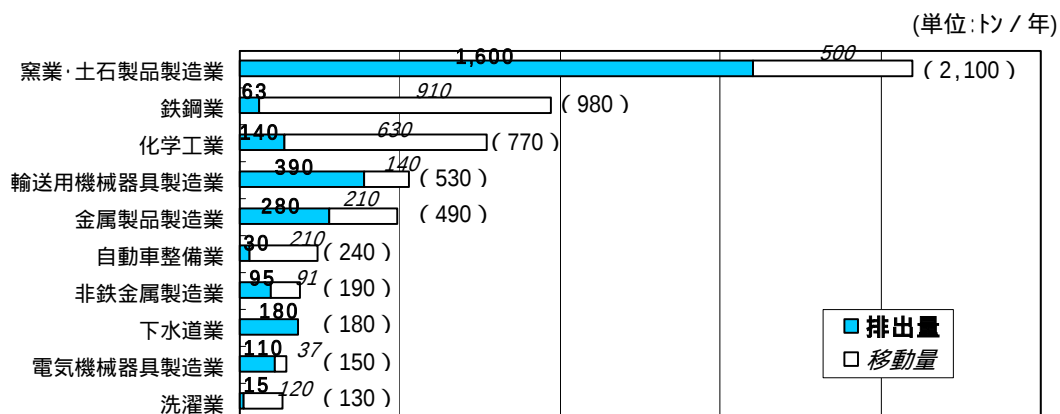


b 届出排出量・移動量の合計の多い業種

業種別の届出排出量・移動量の合計は、図 10 のとおりです。

届出排出量・移動量の合計が最も多いのは、窯業・土石製品製造業の 2,100 トン、次いで、鉄鋼業の 980 トン、化学工業の 770 トンの順となっています。

< 図 10 排出量・移動量の合計が多い上位10業種とその量 >



(2) 区別の届出集計結果

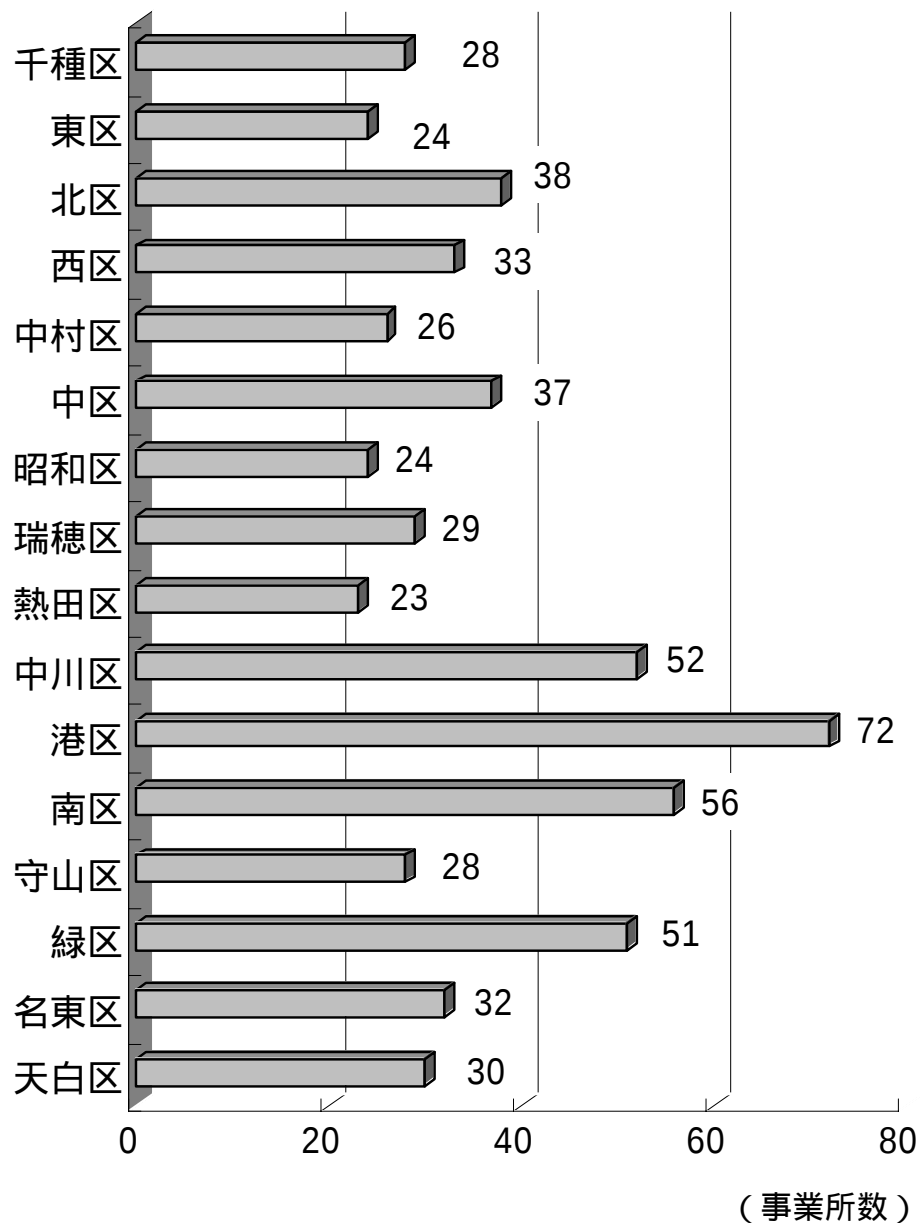
ア 区別の届出事業所数

区別の届出事業所数は、図 11 のとおりです。

届出事業所数の最も多い区は、港区の 72 事業所、次いで南区の 56 事業所、中川区の 52 事業所の順となっています。

一方、最も少ない区は、熱田区の 23 事業所となっています。

< 図11 区別の届出事業所数 >



イ 区別の届出排出量

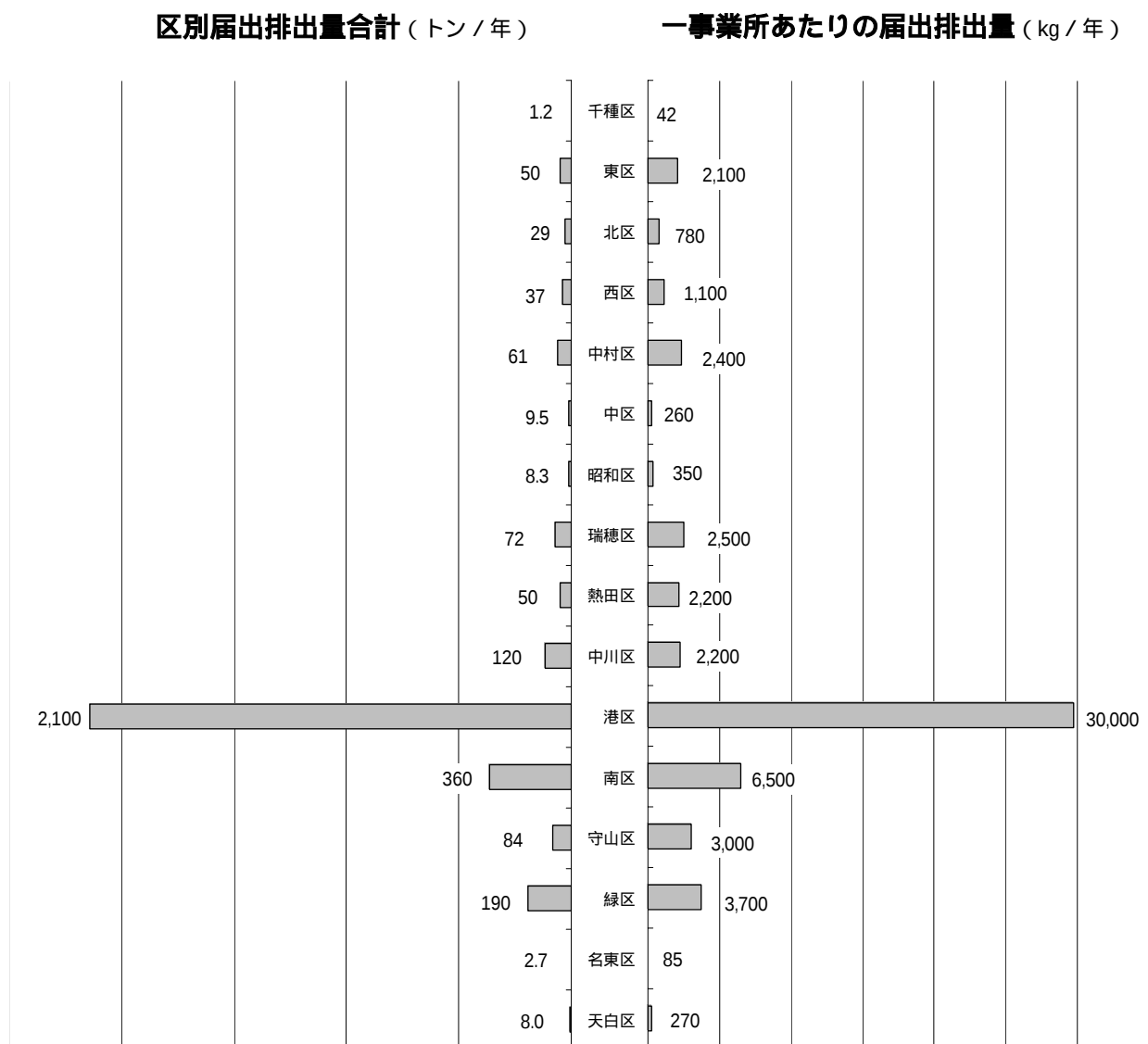
区別の届出排出量と一事業所あたりの届出排出量の平均は、図 12 のとおりです。

届出排出量は、港区の 2,100 トンが最も多く、市全体の 66%を占めます。次いで、南区の 360 トン、緑区の 190 トンの順となっています。

一方、最も少ない区は、千種区の 1.2 トンとなっています。

また、一事業所あたりの届出排出量の平均は、港区の 30,000kg が最も多く、次いで南区の 6,500kg、緑区の 3,700kg の順となっています。一方、最も少ない区は、千種区の 42kg となっています。

< 図 12 区別届出排出量及び一事業所あたりの届出排出量 >



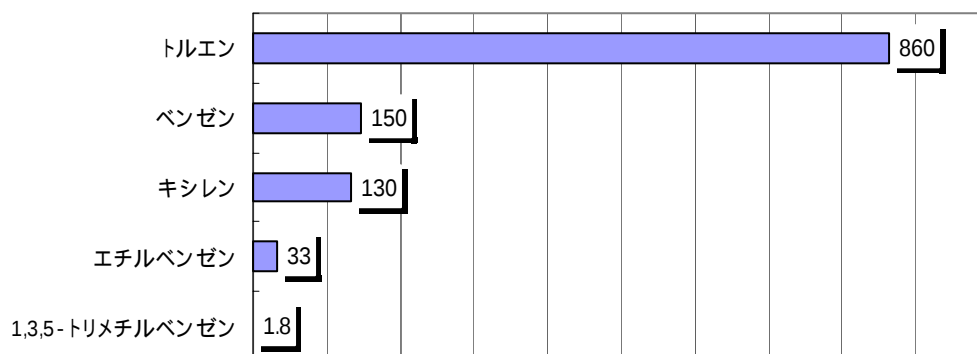
ウ 区別の届排出量の多い物質

届出排出量の多い上位5物質とその排出量を区別にみると、次のとおりです。

a 千種区

排出量の多い上位5物質(千種区)

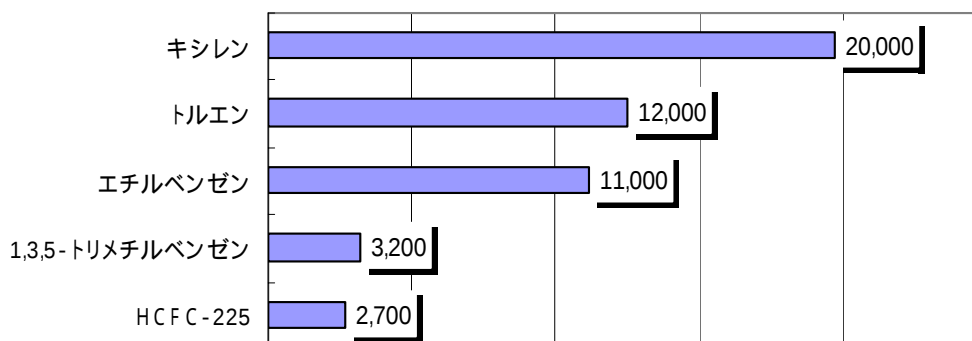
(単位: kg / 年)



b 東区

排出量の多い上位5物質(東区)

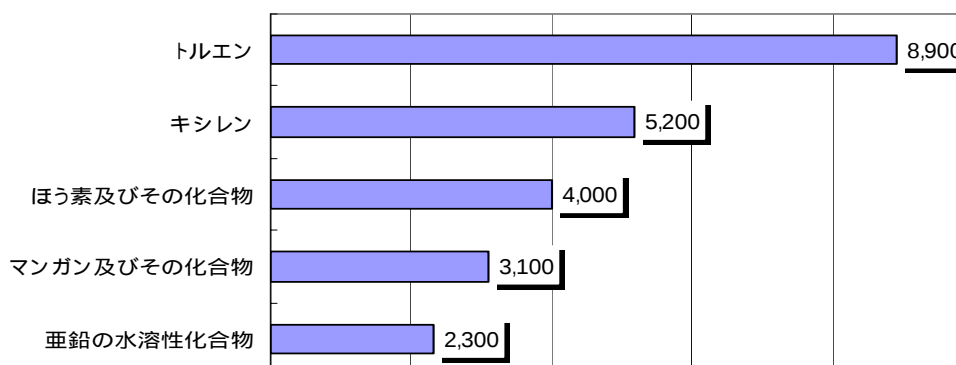
(単位: kg / 年)



c 北区

排出量の多い上位5物質(北区)

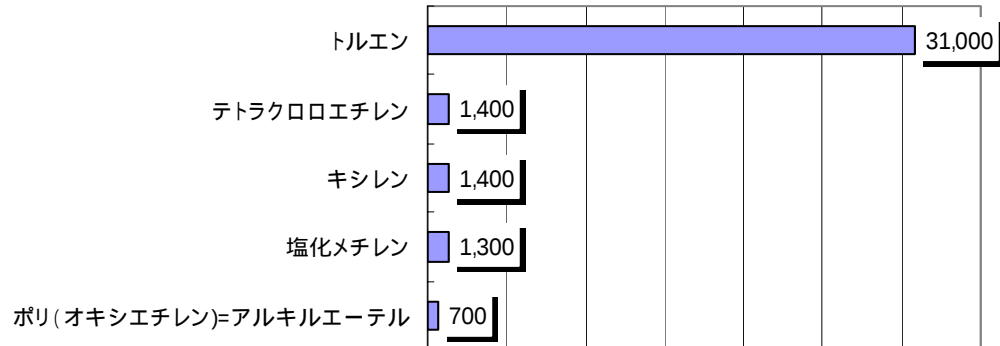
(単位: kg / 年)



d 西区

排出量の多い上位5物質(西区)

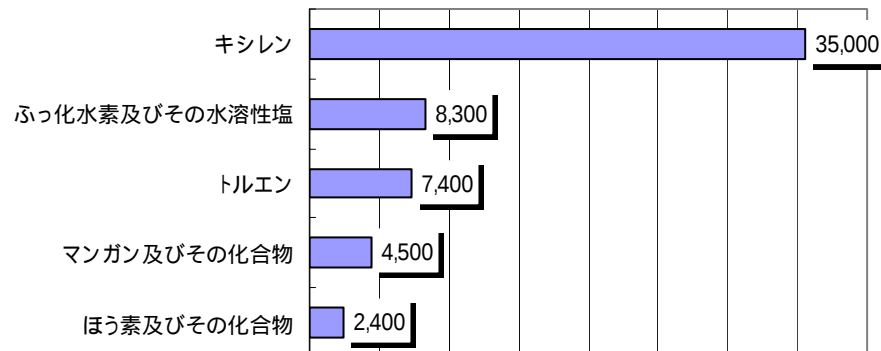
(単位: kg / 年)



e 中村区

排出量の多い上位5物質(中村区)

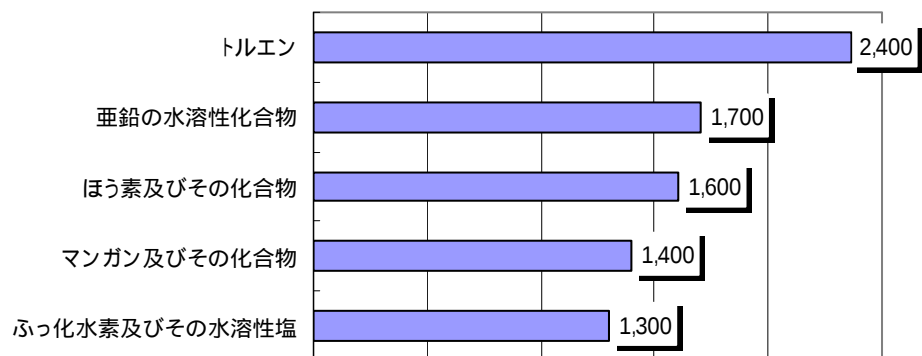
(単位: kg / 年)



f 中区

排出量の多い上位5物質(中区)

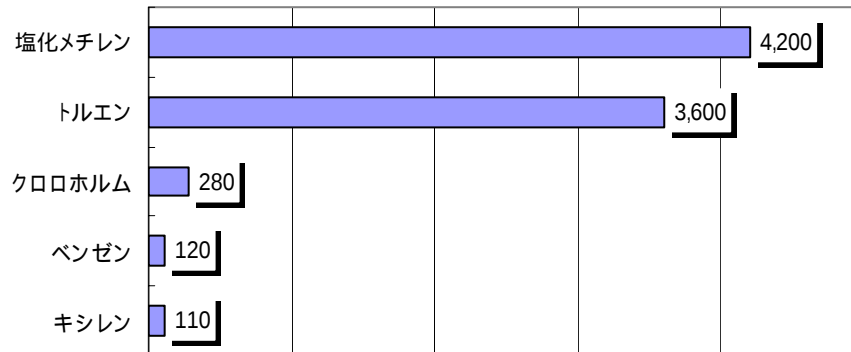
(単位: kg / 年)



g 昭和区

排出量の多い上位5物質(昭和区)

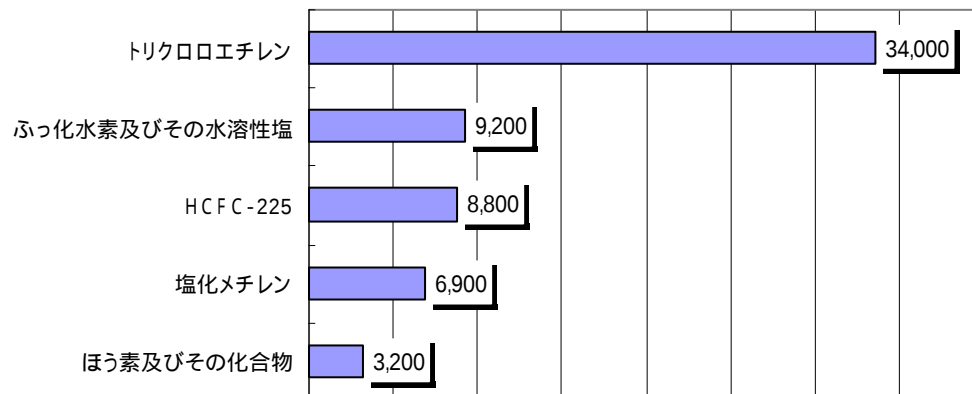
(単位: kg / 年)



h 瑞穂区

排出量の多い上位5物質(瑞穂区)

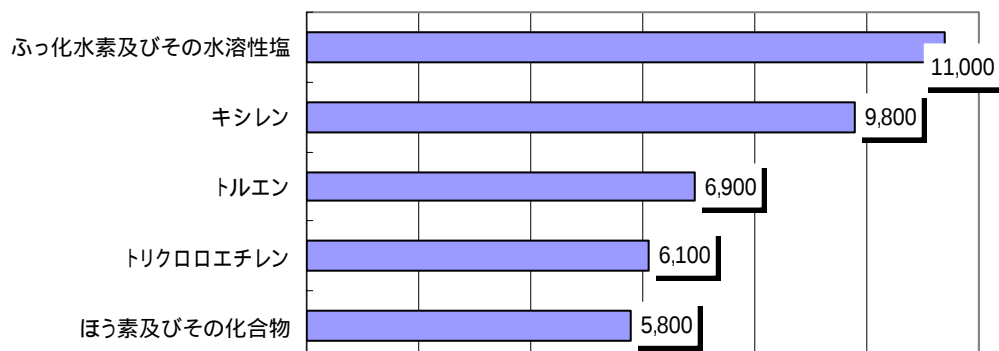
(単位: kg / 年)



i 熱田区

排出量の多い上位5物質(熱田区)

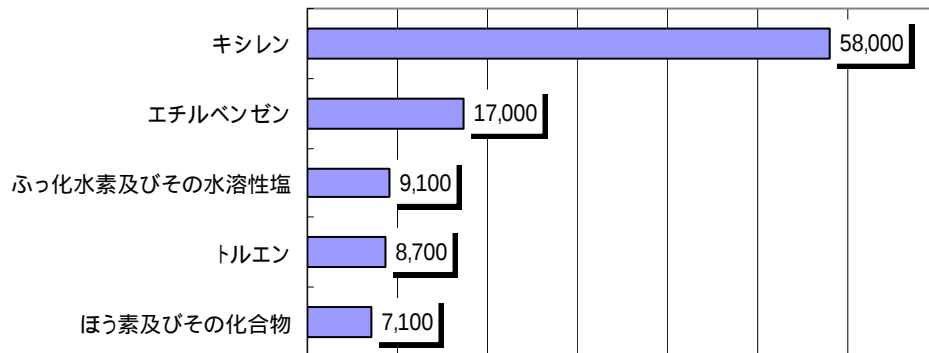
(単位: kg / 年)



j 中川区

排出量の多い上位5物質(中川区)

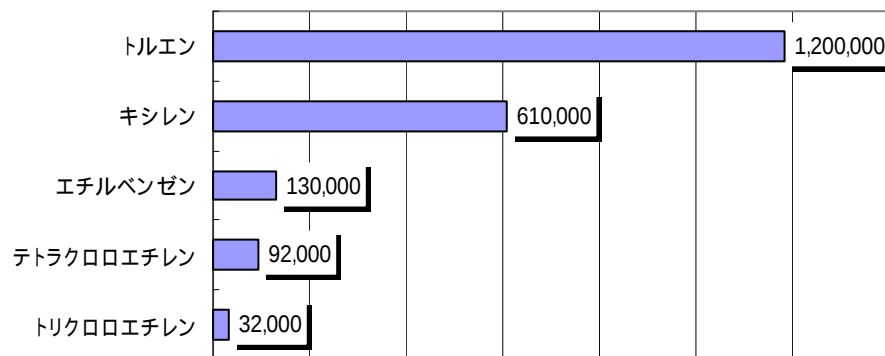
(単位: kg / 年)



k 港区

排出量の多い上位5物質(港区)

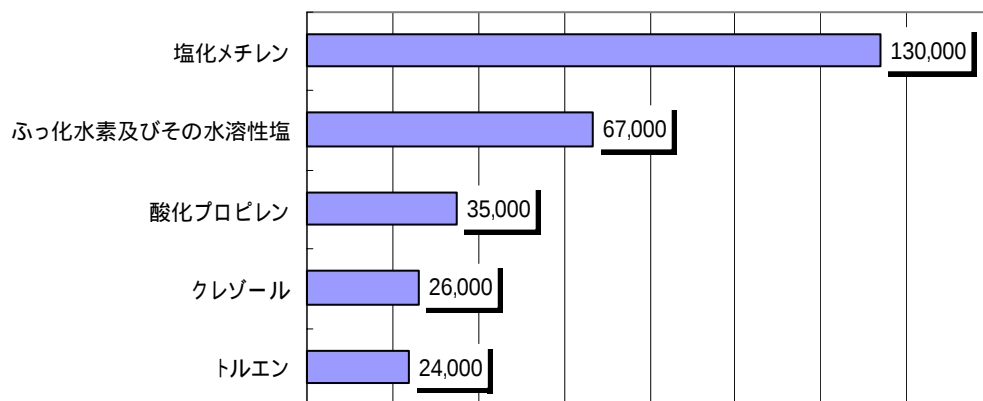
(単位: kg / 年)



l 南区

排出量の多い上位5物質(南区)

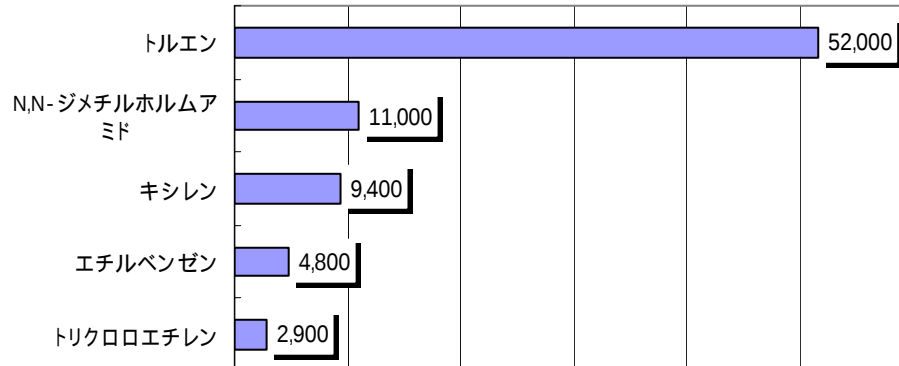
(単位: kg / 年)



m 守山区

排出量の多い上位5物質(守山区)

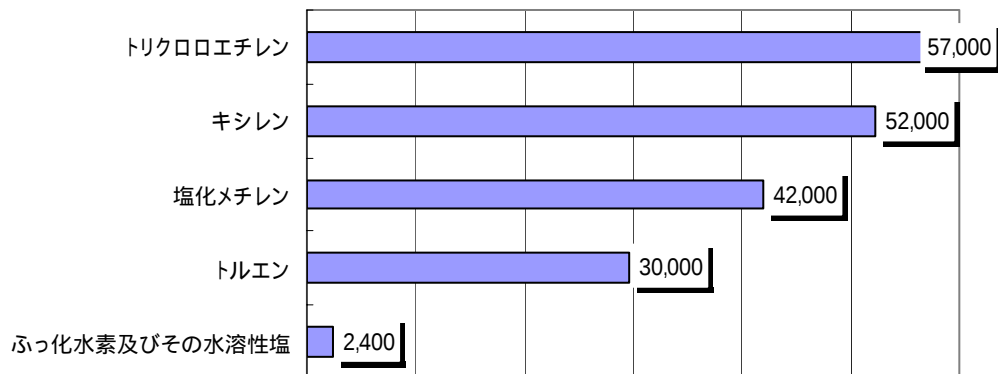
(単位: kg / 年)



n 緑区

排出量の多い上位5物質(緑区)

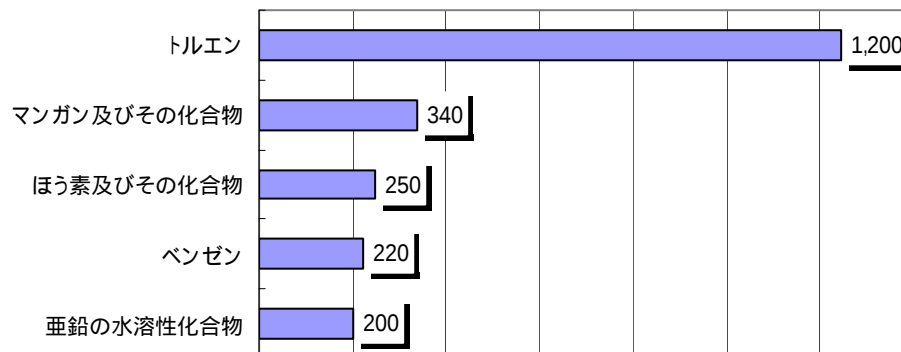
(単位: kg / 年)



o 名東区

排出量の多い上位5物質(名東区)

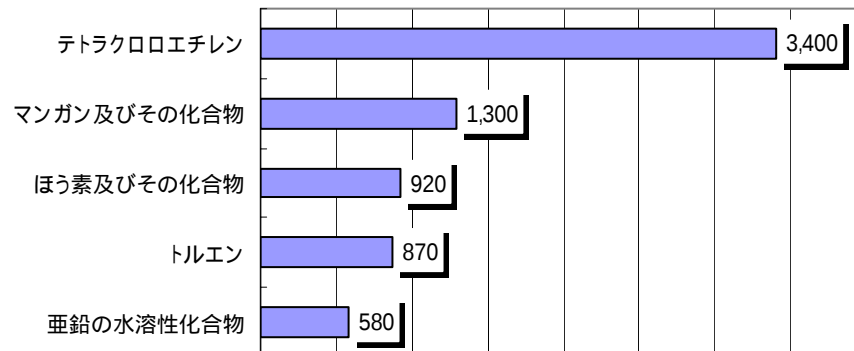
(単位: kg / 年)



p 天白区

排出量の多い上位5物質(天白区)

(単位: kg / 年)



3 その他

全国のP R T R集計結果、化学物質の用途や健康影響などをお調べになるには、下表の環境省ホームページを参照してください。

○ P R T R 集計結果をご覧になるには...

<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/result/index.html>

○ 化学物質の用途や健康影響などをお調べになるには...

環境省では、専門的で分かりにくい化学物質の情報を、専門家以外の方にもよく理解していただけるよう簡潔にまとめた「化学物質ファクトシート - 2003年度版 - 」を作成しています。こちらのシートをご覧ください。

<http://www.env.go.jp/chemi/communication/factsheet.html>

< 参考資料 >

- 1 全市の媒体別・物質別の届出事業所数・排出量及び移動量の集計表
- 2 区別の媒体別・物質別の届出事業所数・排出量及び移動量の集計表